

ミモザ色

街中のフラワーショップでも自宅近くでも、私の好きなミモザ色の鮮やかな花があふれる季節になりました。そう言えば、ミモザ色のセーターを着て来る日もありますが…。現在、日本で見られるミモザの多くは、フサアカシア *Acacia dealbata* Link(1822)やギンヨウアカシア *Acacia baileyana* F.Muell.に代表されるオーストラリア原産のマメ科アカシア属の常緑樹木の総称です。

ミモザの花言葉は、日本では「優雅」「友情」ですが、国によって意味合いが違いイタリアでは「感謝」、フランスでは「思いやり」だそうです。イタリアでは、3月8日は「ミモザの日」として男性から女性に感謝の意を込めてミモザの花を贈る習慣があるそうです。また、この日は「国際女性デー」として、女性への差別払拭と地位向上をめざす国際的な行動を行う日となっています。

ミモザは華やかで色映えの良い木ですが、とても成長が早く、また枝張りが大きくなり「暴れ」やすい木なので、なかなか育てるのが難しい樹木です。わが家でも過去に30cm足らずの鉢植えのミモザをいただき、地植えしたところ翌年には1.5m、2年目には3m以上にも成長し、枝打ち・剪定に苦勞して結局、伐採してしまいました。また、わが家では8年ごとに家のサイディング壁の塗り替えをしており、最初はミモザ色(マンセル値 5Y8.5/12 )で「黄色い家」とご近所では呼ばれていましたが、それから何度か塗り替え、今はピンク系(マンセル値 5YR8/6 )にしています。

ところで、ミモザという響きにひかれ『ミモザ 107歳のピアニスト照子さんのストーリー』という絵本を読みました。老いといかに向き合い、わが身の人生を豊かで幸せなものにするか、簡単な英訳とモノクロの線画イラストとともに、数少ない言葉に生きる強さを感じさせる物語でした。

参考文献

黒川由紀子、絵:Dasha Mussienko 他(2020)『ミモザ 107歳のピアニスト照子さんのストーリー』木楽舎、42頁、